

県仏通信

第4号

平成23年2月発行

発行者

新潟県仏教会長 加藤朝雄

県仏事務局員 阿部正博

事務局住所

〒950-0047

新潟県新潟市東区五津田1-1-1

電話 0250-22-4136

FAX 0250-22-4133

印刷所 有限会社玉能印刷所

御挨拶

新潟県仏教会長 加藤朝雄

皆様にはいつも県仏を支援戴き、有り難うございます。今回、県仏通信第四号ができましたので、お届けいたします。また、会員各位には、お寺からの年始回りも終え、ホッとされている頃と存じます。早いもので、福僧が県仏会長を拝命いたしました。平成二十三年は役員改選の年で、三月の決算予算報告時の役員会で、新年度の会長をはじめ副会長等諸役の役員改選も行いたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

ところで、平成二十二年度は第四十一回全日本仏教徒会議、本大会が開かれた年でありました。【慈悲の心「社会参加仏教」をテーマに、去る十一月九日と十日の二日間、宇都宮市で行わ

れました。全日仏加盟団体代表者会議も同時開催され、新潟県仏教会長もこれに参加したことをご報告申し上げます。

第一日目の会場は宇都宮グランドホテルでした。開会式には菅原栄光大会長・河野太通全日仏会長・有田恵宗全日仏理事長はじめ、沢山の人からの祝辞がありました。開会式終了後のシンポジウムには、「社会参加仏教の課題と展望」をテーマに、山折哲雄氏・金子昭氏・ランジヤナ・ムコバディヤー氏・山口幸照師などが出席、またこれに準行して、加盟団体代表者会議が開催され、公益財団移行後の全日仏の在り方を審議、組織の組み直しが話し合われました。第二日目の会場は宇都宮文化会館で、開会式・輪王寺の延年

舞・船村徹氏の講演などがありました。目玉として予告されていた瀬戸内寂庵の講演が、本人の体調不良のため中止されたことは、参加者をガッカリさせましたが、老齢ですから仕方ないと思えるしありませんでした。

栃木大会の新潟県代表は会長だけでしたが、その勤めは果たしたつもりです。県内会員の皆様方には、県仏と全日仏の両方を、今後とも宜しくお願い申し上げます。有り難うございました。



全国最高賞に輝く

www.yoshiundo.co.jp



YOSHIUNDO

吉運堂

本社 新潟市南区戸頭1347-1 TEL 025(372)1138代

寺院用具 | お仏壇 | 墓石

新潟県で
No.1 ・22店舗ネットワーク
・専門資格保有数160

残したい、心の遺産。

■全日本宗教用具協同組合加盟店

■白根仏壇協同組合加盟店

■全国仏教墓塔研究会会員

■日本石材産業協会会員

■伝統工芸士 ■一般木造技能士

■一般石造技能士

■一般土木施工管理技士

■一般お墓ディレクター在籍

■仏事コーディネーター在籍



福宝

白根店 Tel. 025-362-1657
新潟田店 Tel. 0254-26-3455
新潟店 Tel. 025-275-7712
越前店 Tel. 0259-63-4588
五泉店 Tel. 0250-43-5500
第三島店 Tel. 0256-61-5757
長岡店 Tel. 0258-88-7670

妙高店 Tel. 0257-32-2511
南魚沼店 Tel. 025-781-6550
上野原店 Tel. 025-522-8600
糸島川店 Tel. 025-552-2916
仏壇工場 Tel. 025-362-1666
石材工場 Tel. 025-362-3434

県仏の活動報告

平成22年度県仏の活動報告

3月9日

事務局会議 観音堂内・「奈良の古寺と仏像」展

3月29・30日

全日本仏教会議に会長出席
於 京都リーガロイヤルホテル

4月2日

新潟市仏教連合会に県仏会長
も出席

4月10日

県仏総会並びに
秋葉山平和塔まつり参加

4月24日

県仏より会長ほか数名出席
「奈良の古寺と仏像」新潟展
開場式に

4月27日

副会長 上原教仁師が出席
全仏へ県仏負担金26万円を
納入

5月20日

新潟県人権・同和センター総
会で県仏会長が新理事長に選
出される

5月31日

全日本仏教会議に会長
長出席 本年より新潟県代表
は評議員となる

於 東京グランドホテル

6月28日

県仏通信第3号発行
発送事務 事務局

8月20日

人権・同和キャラバン隊
出発式 於 県庁前
県仏より会長ほか有志出席
20日以後、5日ほどかけて
県内市町村を訪問

9月9日

県下の県仏加盟仏教施設で
「仏教会議通則用聖典」を寄贈
各相当部数を発送

9月16日

第2回全仏評議員会出席
於 東京グランドホテル

10月9日

新潟仏教会主催「ひろさちや
講演会」を協賛開催
県仏より数十名参加

10月28日

「いのち・愛・人権」新潟展
打合せ 於 市役所
（県仏会長が県実行委員長・
新潟仏教連合会長が新潟市実
行委員長になっている）

11月9・10日

第41回全日本仏教徒大会栃木
大会参加
新潟より2人出席

12月9・11日

於 宇都宮グランドホテル
部落解放研究全国集会在新潟

に県仏より多数参加
於 朱鷺メッセ

12月21日

「いのち・愛・人権」新潟展
打合せ 於 市役所

平成23年1月20日

全仏第4回評議員会に
会長出席
於 パークタワー東京

1月26日

新潟県同和教育推進協議会に
会長出席
於 県庁

1月26日

「いのち・愛・人権」新潟展
初日行事に 県仏より
代表数名出席
於 万葉とびあ

（この新潟展は
2月1日まで公開された）

1月27日

いじめ根絶にいがた県民会議
に会長出席
於 自治会館

2月17日

新潟県仏教会役員会開催
於 長岡 魚巻

○22年度決算と23年度予算は次
回の県仏通信で報告致します

お通夜・ご葬儀会場に…

さつき会館 さつきホール

株式会社くみあい企画

●24時間常時受付、迅速対応します。

新潟市秋葉区新津東町1丁目318番地1

TEL 0250 (24) 0983



幸せとやすらぎの心を創る



仏壇
墓石

鈴木佛壇店

白根本店

〒950-1223 新潟市南区白根日の出町10-8

TEL (025) 373-4156 FAX 373-4157

営業時間 AM9:00~PM6:00

<http://www.suzukibutsudan.co.jp/>

新発田店/新発田市城北町2丁目9-18

TEL (0254) 22-1020

長岡店/長岡市古正寺字新田637-1

TEL (0258) 29-5400

小針店/新潟市西区小針4丁目5-13

TEL (025) 233-3135

竹尾店/新潟市東区はなみずき2丁目9-22

TEL (025) 279-1237

阿賀野店/阿賀野市庄ヶ窪662-17

TEL (0250) 62-8890

三条店/三条市上須城61-1

TEL (0256) 47-6757

五泉店/五泉市栗島634-4

TEL (0250) 47-3666

■全店舗駐車場完備しております。お気軽にご来店下さい。

ひろしま先生講演会

新潟弘教会会長 小島本二

新潟弘教会（旧新潟市弘教会・会員数約16ヶ寺）と新潟市弘教連合会では、一年交替で「市民のための弘教講座」と銘打って、講演会を開催しております。昨

年は第七回目で、本会の主催により平成二十二年十月九日に、ひろさちや先生をお迎えして開催されました。会場は県民会館大ホールですが、一階の座席をある程度埋めるのは中々難儀な仕事でした。チケット販売は関係業者にも応援をお願いして、なんとか目標を達成いたしました。県弘教会よりもご協賛を賜り、改めてお礼申し上げます。

演題は「この世の世界」に生きる一で、ご存じの通りの分かりやすいお話で、たいへん好評でした。聴衆は植信使の皆さんが中心でしたが、終了後沢山の感想を頂戴しております。

今後の課題ですが、植信使だけでなく、広く一般市民の方々に、特に若い人に来て頂いて頂くための、PRの方法を研究する必要があります。せっかくの内容のある話

ある話が勿体ないということですが、また、全国的に知名度の高い講師が、そう沢山おられる訳ではないので、採算の問題はありますが、もっと小さな会場を考えてもよいのではないかと思います。

次に、市民のための弘教講座ですから、講演会方式とは別のやり方も、そろそろ考えてもよいと思います。それは企画及び準備段階がとて大変ですが、布教意欲があれば克服できるかと思えます。

激動する社会情勢のなか、その地域の実情に合った布教活動をするために、県弘教会をはじめとする地域弘教会の活動は、今後益々重要性を増してくると思います。各宗団の縦割り行政とは別に、地域寺院の連帯意識がぜひ必要です。市民の皆さんからみれば、みな同じ「お寺様」なので、

「部落解放研究」
第四十四回全国集会
in 新潟」に参加して

事務局員 阿部正機

平成二十二年十一月九、十一日の三日間、新潟メッセ会場

に「部落解放運動を大きく前進させ、人権の法制確立にむけた協働の取り組みをすすめるよう」のスローガンのもと、約五千人が集い、講演・分科会・ワールドワークなどで、人権確立・差別撤廃に向けた学習と交流を深め実り多い大会となった。

当会としても大会主旨に賛同させていただき、協力を表明し、加藤会長が現地実行委員として初中後参加し、さらに当日は当会員約十名が参加、それぞれに研鑽し人権感覚を磨いた。

また、宗教関係者も全国からおよそ二百名の方が足を運び、その中で県内の人権確立・差別撤廃に向けた取り組み団体「同和問題に取り組む新潟県宗教教団連絡会議」から百名の参加があった。

人権確立が、人が幸せに生きる権利の実現であり、宗教者は人が幸せに生きるお手伝いをする役割と機能を有しているとすると、宗教者が人権確立に取り組むことは、ごく自然なことであると思う。

全日仏でも時折、人権学習会が開かれる。県弘としても独自の切り口で人権問題を取り組んで行けたらと願っている。

第22回

「いのち・愛・人権」新潟展
さひひらこう！人権と共生の世紀新潟展実行委員会
委員長 河合正樹

あらゆる差別の撤廃と人権の確立を広く県民の皆様に、より強く訴えるため、「いのち・愛・人権」新潟展「さひひらこう！人権と共生の世紀」が開催されたことは、まことに意義深い事であり、大変喜ばしい事であり

「いのち」とは自分自身の「いのち」をいつの間にか、当たり前のようにあるいのちと錯覚し誤解をし、尊厳を感じずにいる「いのち」。

「愛」生まれてきてくれたいのちに感謝していた事を見失い、何気ない一言から相手を傷つけてしまっている。いのちを贈った尊厳を軽んじてしまう、愛から愛情、憎悪、虐待、DVに変化してしまう。

「人権」とは、不当な差別・虐待その他の人権を侵害する行為をすべて指し示すものである。ちいさな一言で痛み苦しみを抱くこともある、小さな火種が大きな大火の火種となることもある。

例えば、裁判員制度によって

司法と「一般人の知識と感情の判断」で「人が人を裁く」被告の証言を基に検察より供述調書が作成され裁判が行われていく中で真実を見抜く力があるのか。今までの司法中心の裁判であっても冤罪の事実が露呈してきている。被害者や、その家族はどの様な結果が出ても癒される事はない。

また、臓器移植法の改正でドナー登録なしで、家族の同意で移植ができるようになった。臓器移植の手段がなければ、生きられない「いのち」もある。

今の社会情勢の中で「いのち」とは、「愛」とは、「人権」とは、新たな問いを持ち「いのち・愛・人権」新潟展において真剣に考えていく場となるよう願う。この機に新潟市民をはじめ、より多くの方々に人権の尊厳。大切さ、いわれなき差別の恐ろしさを充分に認識していただいて差別のない明るい社会、互いに尊敬し、信頼し合える健全な社会の実現に向けて努力を続けていきたいと志願致しております。

ここに関係市町村、関係諸団体等多数の方々のご理解あるご協力とご支援に感謝申し上げます。新潟展が成功したことに厚くお礼申し上げます。

法話に使えよ 「勤め」の中の仏教語

「日課 御勤め 勤労」

「私は毎朝体操をすることを日課にしております。それから御勤めにします。・・・この表現に変なところはありません。日課や御勤めという言葉が、寺院発祥の言葉であることさえ、気付かないで使っている表現ですね。

御勤めは勤めに御をつけたもので、仏前でする勤行を丁寧に言っただけです。そして自らに課した日々の勤行が、日課（ニツカ・ジツカ）と呼ばれてきました。坊さんは日課として、僧と僧に本堂で御経を読みます。これを朝課・晩課と言っており、それが、その他常の勤行があれば、すべて日課です。勤行は就緒だけではありません。坊さんとしてやらなければならないことを勤め行うことが、勤行なのです。勤行を御勤めとも言いますが、今や、会社や官公庁などに雇われて働くことを、皆、御勤めと言っようになりました。寺院での御勤めとその他の御勤めの違うところは、寺院の勤めが相違であるのに対して、その他の勤めは勤労であることです。

勤労（仏教読みではゴノロウ）の労は、仏教では煩惱を指しますから、好んで苦勞することが「勤勞」です。しかし明治以後、

仏教でも一般に合わせて、勤勞を精進の意味で使ってきました。煩惱に携わって、多くの人々を幸福にするのが勤勞だと考えれば、「政府の辞書解釈に反発しないで済む」という事情があったからかもしれません。そうすると、勤勞は善業行ですね。

私達の毎日の生活には、決まったサイクルが必要です。自分の今やっている「御勤め」に合わせて、日課表を作って暮らしてみましよう。起きる時間や寝る時間が定まらめだったり、毎日やるのがバラバラだったりすると、体調を崩すばかりか、良いことありません。キチンとした御勤めを「日課」にしたいものです。

「打ち出の小槌 徳願 徳分」

昔さまは「一寸法師」の話を御存じでしょう。「鬼が持つていた打ち出の小槌」を取り上げ、「大さくなあれ」と言いながら姫様が眠ると、一寸法師は立派な青年になります。この小槌は、どんな願いも叶えてくれる不思議な槌で、姫様と一寸法師は、その後結婚して幸せに暮らしたそうです。

「打ち出の小槌」は大黒様の持ち物としても、人口に膾炙しています。振れば何でも欲しいものが出てくるというこの小槌は、福の神としての大黒様には必需品でしょう。大黒様はインド伝来の神様で、

ヒンズー教のシバ神の化身・マハーカール（摩訶羅羅）に由来しています。仏教では天部の神様・大黒天となり、その後、日本の大団主命（大団・ダイコク）と習合して、日本流の「大黒様」となりました。

大黒天の話はともかく、打ち出の小槌は人間も欲しがれるものです。『アラジン』のランプや「仙人の杖」など、願いの叶う物を所有している者の話は、世界中にあります。そしてそれを手に入れた人間の話も、あちこちで語られています。観音様の持つている「徳願」という水瓶も、求める物が何でも中から出てくるという瓶ですが、これは実は、「持戒」を徳願に喩えたものでした。

私達も仏の戒めを持すれば、徳願を手に入れることができるかもしれません。いや、既に持っている人がたくさんいらつしやいます。

人にはそれぞれ「徳分」が具わっています。自分に具わっている良い条件の事です。徳分の字を当てて、自分の取り分を言うこともありですが、生まれながらに与えられている財産や健康もその一つでしょう。今既に手にしている徳分に感謝しながら、「徳分という打ち出の小槌」を振り、更なる福徳を得るよう育成精進してゆきたいものです。（広大寺発行法話冊子より転載）

寺院用仏具・仏壇・製造修復販売



放光

●本社・工場

〒940-0825 新潟県長岡市高畑町617

TEL 0258(33)5644 FAX 0120-174176 FAX 0258(32)7149

●新潟店

〒950-0941 新潟県新潟市中央区女池2-2-11

TEL 025(280)1550 FAX 025(281)8790

本物を未来へ 伝統技術の専門メーカー

仏壇・基石・神輿

TOA トーア 株式会社

☎ 0120-00-1930 FAX (0258)21-3830

本社／新潟県長岡市寺島町 8 1 7

長岡本店 (0258) 28-1930
長岡本町店 (0258) 33-1930
新潟竹尾店 (025) 272-1930
上越店 (025) 522-0139
南魚沼店 (025) 772-8193
中之島工場 (0258) 66-5193
石材工場 (0258) 27-2113